

# 小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

- 1 一括質問一括答弁方式
- ② 一問一答方式

質問件名 主権者教育を進め、こどもの声を施策につなげよう

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください)

2024年10月の衆議院議員選挙における、18歳、19歳の投票率(小選挙区)は43.06%でした。若者層の投票率は低い水準にとどまったままです。2023年度の文部科学省の「我が国と諸外国の子どもと若者の意識に関する調査」の報告では、政策決定過程への関与について「私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない」の問いに、肯定的な回答をした日本の若者は36%で、他国と比べて一番低い結果でした。一方、スウェーデンの若者の第二次世界大戦後から2002年までの平均投票率は87%です。スウェーデンでは、あらゆる場面で、社会参画が保障されており、学校では、必要な環境整備など、子どもたち自ら変えたいことを提案し話し合い、ともに学校をつくるのです。主体的に運営に関わることで、社会を変える当事者としての経験を様々な場面で保障する施策の結果が、投票率に表れているのです。東京都子ども基本条例では、「こどもの意見表明と施策への反映」と「こどもの参加の促進」を定めており、市の計画にその声を活かしていくことは必須です。また教育分野でも、文部科学省は、主権者教育に関する多様な取組を展開するよう促しています。小平市においても、主権者教育を進めていくことが必要と考え以下質問します。

1. 市は、主権者教育をどう捉え、どのように進めていくべきと考えていますか。
2. 現在、「(仮称)小平市子ども計画」策定における、こどもの意見表明と参加の取組の状況についてお示ください。
3. 策定中の「(仮称)小平市子ども計画」に、社会を変える当事者としての経験を保障するためにも、こどもの意見表明と施策への反映、参加の促進を盛り込むべきと考えますが、ご見解を伺います。
4. 児童会や生徒会、学級活動の中で聞き取ったこどもの声を、学校生活での環境整備などにつないでいくことが、主権者教育の実践につながると考えますが、どのように取り組んでいますか。
5. 全市立学校における「こだいら特別活動の日」について
  - ① 「こだいら特別活動の日」の取組により、どのような効果がありましたか。
  - ② 自らの集団や社会生活をよりよいものにすることができたという実感を持つためにも、「こだいら特別活動の日」は有効と考えます。今後どのように継続していきますか。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

2025年 2月 13日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 柴尾ひろみ

受付番号【 】

27	26	25	24

-( / )